

# 2020年 年頭所感

Q1 2020年の目標

Q2 2019年がんばったこと

Q3 皆さんに知ってほしいこと

Q4 2020年チャレンジしたいこと

Q5 オリジナルに出場できるとしたら、どの種目に出たいですか。

(現実に存在しない種目でも可)



2020 TOKYO



病院長 山下 静也

Q1 ①2019年にやってきたことを継続し、さらに病院の収益改善のための種々の策を実行に移し、黒字化を目指します。

②特に、予定入院や手術件数、内視鏡検査、健診受診者の増加による収益増を期待したいと思います。

③医師の働き方改革を実行し、複数主治医制の導入、勤務時間の短縮を病院全体で行える道筋をつけたいと思います。

Q2 ①2019年は病院長として、医師確保及び充実のため大阪大学、和歌山大学等の関連施設を何度も訪問し、内科系・外科系ともに診療科が充実しつつあります。

②医師のみならず、全職員の働き方改革を進めるため、交替制を導入しました。

③健診センターの充実と収益の増加を目指して、健診システムの改革を先導して行っています。

④保育所の移転計画と連動して、院内スペースの有効活用と収益増加のための施設改修のワーキングを立ち上げ、優先順位を決め、順次計画を実行しつつあります。

⑤日本動脈硬化学会理事長も兼務しながら、国内・国際学会でも多くの発表を行うとともに、多数の英文・和文論文の発表を行ってきました。

Q4 健康維持のための有酸素運動(テニス)の継続とフレイル防止のための筋力強化に力を入れたいです。



副病院長兼  
救急診療部長兼  
患者サポートセンター長  
松岡 哲也

Q1 ①幹部として、病院の目標や方針を明確に示す。

②職員一同連携して、共通の目的に向かって邁進できるように環境を整備する。

③各科・各部署の中堅若手、現場の声に耳を傾ける機会を多くする。

Q3 皆さんは「人生会議」という言葉をご存知ですか？

吉本新喜劇の小藪さんのポスターが発送中止になったことで、初めて聞いたという方もおられるかもしれません。人生会議とは、人生の最終段階を迎えたとき(不治の病に罹ったとき)に備えて、皆さんの大事な人と一緒に人生の最後をどのように生きるかを話し合うことです。その中には、治療の方法についても、個人が自分に適した(希望する)治療を選択しておくこととなります。

日本は、超高齢化社会を迎えており、急性期病院においても患者さんのほとんどが高齢者で占められています。高齢者と言っても、元気に働いておられる方から重度の介護を必要とする方まで様々です。そういった方々に、同じように高度専門医療や救命医療を提供することが、果たしてその患者さんにとって幸せでしょうか。私たちは、それぞれの患者さんに適した満足して貰える治療を提供したいと思っております。そのためにも、平素から「人生会議」を繰り返し行って、自分の人生の最終段階がどうありたいかを、書き留めておいてください。

私たちは、患者さんの意思を尊重し、患者さん一人一人に相応しい医療を全力で提供します。

Q5 綱引き 協調、連携することで、2倍、3倍の力が発揮できる。まさにチーム力が試されるスポーツです。弱いところは皆で助け合いますが、故意的なサボりは直ぐにバレます。



副病院長兼  
地域医療サービスセンター長  
永井 義幸

Q1 職員一人一人が考え発展する組織づくりをめざしたい。多くの負荷が急にかかる現在では、組織自体つまり各個人個人が組織をどのようにしたらいいか職場でよく話し合い具体化することが成長するために必須である。この課題は同時に現場への権限移譲も進める必要を伴う。一生命体としての組織の成長を促したい。

Q3 心臓センターでいっしょに活動している看護師、リハ、臨床工学技士、放射線技師、検査技師、超音波検査士、管理栄養士の方々みなありがとうございます。

Q5 マラソン。北海道はおいしい食べ物があります。



副病院長兼看護局長  
藤野 正子

Q2 「人材」は「人財」です。人材育成また人材活用をすることで、職員のモチベーションもUPし医療の質向上にもつながると考えています。修学部分休業及び自己啓発等休業の提案が通り、働きながら修学できるような支援体制が構築できました。また、特定看護師研修の実習施設として体制整備し、受講を支援する体制も整えられました。さらに、自然災害時に保育所や学校が休校した際に院内で子供さんを預けられる「たけのこ広場」の設置など、職員が自分の力を発揮できる環境づくりに努めた1年でした。

Q3 病院機能評価や適時調査などいつでも指摘されるのが入院診療計画書です。本来はそれぞれの患者の病状にあった看護計画が立案され説明と同意を得るのですが、実際には異常の早期発見、合併症の予防など個別性のない画一的なものでした。このため、看護師長からトレーニングを行い、各看護師への指導にあたることで少し個別性のある計画が立案できつつあります。入院時診療計画書は医師だけでなく看護師だけの

ものではなく、医療チームの計画書です。各部門が ONE TEAM になって患者に納得と安心できる医療の提供をできるように共同で作成できればと考えます。

**Q4** 大卒の看護師の採用に感化され、50歳を超えてから通信大学で社会福祉を学びました。卒業はしたものの、忙しさにまかせてまじめに学ばなかったことを今さらながら反省しています。学ぶことで脳は活性化され、新しい知識や人々との出会いによって刺激も多く受けます。そのことで、心豊かな生き方ができるのではないかと思ひ、もう一度、何かを学ぶことにチャレンジしようと思っています。

診療局長兼血液内科主任部長兼  
臨床研修センター長

鳥野 隆博

**Q1** 造血幹細胞移植の件数を増やして、今以上に治っていく患者さんの元気な姿を見たい

**Q2** 血液疾患を強く疑う、近隣から問い合わせの患者さんをすべて引き受けることができた

**Q5** テコンドー。一番、金メダルに近そうだから・・・

総合内科・感染症内科部長兼  
感染症センター長兼院内感染対策室長兼  
産業医兼臨床研修センター副センター長

倭 正也

**Q1** 地域の医療機関との連携をより強化させていただき、当科の入院利用率が平均100%を保てるように尽力致します。

**Q2** 一類感染症等の重症患者発生時に備えた集中治療体制の整備及びわが国初のアドバンストワークシヨップを当院にて開催し、他の特定感染症指定医療機関に対して指導を行いました。

**Q3** 不明熱の患者さんの診断および感染症、膠原病に関して当科にて引き続きの治療を行っています。ぜひとも原因のよくわからない発熱患者のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

糖尿病内分泌代謝内科部長兼  
糖尿病センター長兼  
リハビリテーションセンター副センター長

檜根 晋

**Q1** 1日1万歩

**Q3** 甲状腺センター、糖尿病センターができました。  
**Q4** アイススケート  
(近くにスケートリンクができたので)

腎臓内科部長兼血液浄化センター長

坂口 俊文

**Q1** 2020年3月で退職いたしますので、それまで、患者様方や、次の先生方に御迷惑をおかけすることのないよう診療に励みたいと思います。

**Q2** 筋トレです。でもむしろリハビリといった方がよいかもしくませんが。

**Q4** ジャック・ラカンの精神分析を勉強したいです。

肺腫瘍内科部長

森山 あづさ

**Q1** 肺癌化学療法症例の充実、2020年度緩和研修会を成功裏に終えること

**Q2** 呼吸器内科、呼吸器外科とともに気管支鏡症例が増加したこと、がん患者数の増加、気管支鏡関連施設、呼吸器関連施設の継続

**Q3** 化学療法分野が免疫調整薬、分子標的薬など新しい治療選択肢が増え、個別化治療に向けた遺伝子検査パネルも進歩しています。急激に化学療法法の標準治療が変わる中、個々の患者さんに合った有効性の高い治療を提案することを目標としています。

脳神経内科部長兼  
認知症ケアセンター長

宗田 高穂

**Q1** 患者様、地域の先生方に少しでもお役に立てるよう頑張りたいです

**Q2** 地道に臨床に携わってきました

**Q3** 「神経内科」から「脳神経内科」に名称が変更されました

循環器内科医長

義間 昌平

**Q1** 運動すること。趣味の時間を確保すること。

**Q3** みんな腹ぺこです。

**Q5** カーリング(もぐもぐタイムに参加)

消化器内科主任部長

大西 亨

**Q1** スタッフの増員(希望)

**Q3** E R C P や E S D 対応可能な内視鏡常勤医は一人だけであり、後進の育成にもあたっています。各スタッフ、メデイカルスタッフもフル回転で頑張っています。

**Q4** 有休全消化(冗談です)

※ E R C P : 内視鏡を用いて、本来の胆管や膵管の流れとは逆方向から胆管や膵管を造影してその様子を観察する検査

※ E S D : 胃カメラや大腸カメラで消化管の内腔から粘膜層を含めた粘膜下層までを剝離し、病変を一括切除するという治療法

外科統括部長兼消化器外科部長兼  
がん治療センター長兼医療安全管理室長兼  
臨床研修センター副センター長

種村 匡弘

**Q1** さらなる手術症例数の増加に向け努力します。特に、肝胆膵外科領域では日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設の認定を目指します。

**Q3** 当院にて初期研修を修了したレジデントが消化器外科に入室しています。これは当科の外科教育が良好に評価されていることの裏付けと考えています。他施設からのレジデントの受け入れも可能ですので是非、ご連絡ください。

**Q4** 手術支援ロボットを導入し、ロボット支援による胃癌、直腸癌手術を開始したいと考えています。

## 2020年 年頭所感(続き)

Q1 2020年の目標

Q2 2019年がんばったこと

Q3 皆さんに知ってほしいこと

Q4 2020年チャレンジしたいこと

Q5 オリンピックに出場できるとしたら、どの種目に出たいですか。  
(現実に存在しない種目でも可)



脳神経外科部長

出原 誠

Q1 手術及び血管内治療の技術を上げ、精度の高い治療で、信頼される、りんくう脳神経外科にする。

Q3 スタッフがさらに充実してきており、さらに脳神経外科がパワーアップしそうです。

Q4 個人的には、適度な運動をして、自分自身の健康管理を心がけたいと思います。

心臓血管外科部長兼  
ICU/CCU部長兼  
医療安全管理室副室長

船津 俊宏

Q1 しばらく行けていない国際学会に参加し、しばらく書いていない学術論文を書くこと

Q3 優秀な若い外科医たちが、日夜治療と研鑽に努めています。そんな我々に安心して任せてください。

Q5 射撃 ゴルフG13を精読しているから、できそうな気がする。

整形外科部長兼脊椎センター長兼  
リウマチセンター副センター長兼  
機能外傷センター脊椎外傷部門長

金澤 元宣

Q1 2019年を上回るようにしたい。

Q2 例年通りです。

Q3 少ない人数で頑張っております。

形成外科部長兼  
機能外傷センター再建外科部門長

服部 亮

Q1 original igloo pizza ovenの完成

Q2 大量のFire bricksカット加工とそれに必要な治具のデザイン・製作。

Q3 QOLを追求する日々の診療と同様の精度・情熱をもってpizza oven製作を行っている医師のいる診療科です。

呼吸器外科医長

山中 秀樹

Q1 呼吸器外科の手術件数を増やしたいです。

Q3 手術の質と量と機動力の向上を目指しております。  
Q4 手術件数100例越えは何とかクリアしたいです。

小児科部長兼  
周産期センター新生児医療センター長兼  
新生児科部長

和田 芳郎

Q1 診療内容の向上

Q3 新生児医療と小児科診療、連続性を意識して、共に頑張っています。

Q4 育児支援を更に充実していきたいです。

産婦人科部長兼  
周産期センター産科医療センター長

荻田 和秀

Q1 2020年も地域だけでなく、大阪南部の中核周産期センターとしてできる限りの症例に応需したいです。

Q2 産婦人科の救急施設として、一次救急府下2位、二次救急府下6位、三次救急府下2位の受け入れをしました。

Q5 女性アスリートの伴走者。

産婦人科は女性にとつての縁の下の力持ちであり続けたいです。

泌尿器科部長

萩野 恵三

Q2 泌尿器科医員全員で通常診療と手術療法並びに泌尿器科救急疾患に対して全力で取り組んだこと。

Q3 泌尿器科の現状のパワーと医療資源のすべてを活用して当施設で可能な診療をほぼすべて実施していること。

Q5 水泳(男子自由形)か、ボート競技。水泳は中学高校の6年間、ボート競技は大学の6年間クラブ活動で経験したから。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長

碓田 猛真

Q3 知っておいてもらわなくてもいいけど、小生(シミュレーションボードゲーム)ははじめ、おたくが多いです。マイナー科を選んでる時点で当然とも言えますね...

Q4 シミュレーションボードゲーム人口は縮小、高齢化に苦しんでいます。人口増できればいいなあ... 興味のある方はお声がけくださいませ。

Q5 当然、ボードゲーム... 初心者でも容赦しまへんで(笑)

口腔外科部長

大前 政利

Q1 外来診療室の環境改善、拡充を20年訴えてきているのですが、未だに変わりません。そろそろ叶わないかなあ。

Q2 国内外でのアピールは沢山できました。ある芸能人の病气報道もあり、2019年は特に多くの患者さんがお越しになり、良い仕事ができましたが、まだまだ余裕はなさそうです。

Q3 『あきらめない頭頸部癌治療』を実践する「最後の砦」でもある当科は、皆さんのご協力の下に成り立っております。この場をお借りして、お礼申し上げます。

放射線科部長兼中央放射線部部長兼  
放射線治療センター長

稲場 文隆

Q1 放射線部内の環境整備

Q2 関係者のご協力により機器更新が比較的順調に進んだこと。

Q3 更新機器により国内最高水準の画像が診療に提供されていること。

診療局長補佐兼  
中央手術室長兼麻酔科主任部長

小林 俊司

Q1 全ての手術を受けられる患者様に、安全で質の高い麻酔を提供することです。ペインクリニックも頑張っています。

Q3 当麻酔科はスタッフ10名(専門医9名)、専攻医5名の構成です。どのような麻酔でも手を抜くことなく、全力で行っています。

Q4 天体写真が趣味なのですが、私のコレクションに流星写真だけ欠けておりまして、今年はモノにしたいですね。ペルセウス座流星群などです。

検査科部長兼  
糖尿病・内分泌代謝内科主任部長兼  
甲状腺センター長

高野 徹

Q1 自分にできること、組織としてできることをきよし師匠にならって小さなことからコツコツとやっていると思います。

Q2 新しい職場に馴れるように頑張ろうと思っていましたが、皆さんが親切にしてくれたので大して頑張らないうちに1年が終わってしまいました。

Q3 部屋が狭くてもういっぱいいっぱいです。新しい機器が入ったり、新人が増えたりした結果で良いことではあります。長期的にはなんとかしたいと思っています。

病理診断科部長

今北 正美

Q1 1人病理医であるので、健康に留意すること。

Q2 病欠がなかったこと。

Q3 今年から検査科から病理診断科が独立したことです。

リハビリテーション科部長兼  
リハビリテーションセンター長

小野 秀文

Q1 私は救急専門医なのですが、リハビリテーションという重要な部署を任せてもらい、1年半経ちます。実は医師4年目で大阪大学の医局から動作解析というリハビリテーションにとって重要な分野を学びにアメリカに派遣していただいた経験もあり、本来の？仕事を任されているといった方がいいのかもしれない。ざばり、2020年というか、これから数年の目標なのですが、当院におけるリハビリテーションに対する別の視点を持ってもらうことが目標です。海外、特にアメリカでは内服、外科治療とともに運動療法という『治療』が認知されています。当施設においてもその概念を根付かせて行きたいと思っています。

Q3 当院リハビリテーションでは、皆様のニーズに応えるべく、セラピストが多くの資格を取り、または、取得すべく励んでおります。ADLの向上のみならず、機能改善から地域連携に到るまで、幅広く患者さまのリハビリテーションの側面を支えています。

Q5 学生時代に部活の一貫で始めた筋力トレーニングに一時期、はまっておりました。学生時代にジムの指導者から大会に出ると言われたこともあり、パワーリフティングの競技大会(重量挙げとは違います!)に出ようとしたことはあります。世界的な大会もあり、将来的にはオリンピック種目になる可能性もあると思っています。

大阪府泉州救命救急センター所長兼  
Acute Care Surgery  
センター長兼重症外傷センター長

中尾 彰太

Q1 日本救急医学会の声明「人を救うには、まず自分が健康でなければならない」に習い、元気で過ごすこと。

Q3 命に関わるレベルの重症のけがの患者さんの治療では、日本トップクラス(確実に、5本の指に入ります!)であること。

Q4 ダイエット(人生初)

国際診療科部長兼  
健康管理センター長

南谷 かおり

Q1 オリピック・バラリンピックで来日する外国人に安心・安全の医療を提供できるよう、チーム医療に努めます。

Q2 検診の新規契約を増やして受診者数の増加につなげ、各部署に分散していた検査を新検診室に集約し、受診者の移動距離や待ち時間を短縮しました。

Q5 連想ゲーム 言葉や文化が異なる外国人でも、表情や仕草、片言の会話を耳を傾け、情報収集すること意思の疎通を図っています。

りんくうウエルネスケア研究センター長兼  
健康管理センター副センター長兼  
循環器内科部長

増田 大作

Q3 健康管理センターは検査室を新たにオープンし、協会けんぽにも対応可能となりました。循環器内科外来では脂質(特に家族性高コレステロール血症や睡眠時無呼吸症候群)の患者さんに多くお越しいただくことになりました。

Q4 日常診療のみだけでなく、さらに研究を深めて海外学術論文投稿を年2本以上進めていきたいと思えます(昨年は1本でした)。

Q5 ウイスキー好き酒部門&魚の三枚おろし部門(昨年練習してかなり上達しました)。

医師支援秘書主任

末永 裕生

Q1 遊ぶ!! ON、OFFともに充実させる!

Q2 健康維持!

Q3 医師支援秘書は総勢約40名を維持しています。十人十色。個性豊か。刺激的。だからお互いを高めあうのです。

# 2020年年頭所感(続き)

Q1 2020年の目標

Q2 2019年がんばったこと

Q3 皆さんに知ってほしいこと

Q4 2020年チャレンジしたいこと

Q5 オリジナルに出場できるとしたら、どの種目に出たいですか。

(現実には存在しない種目でも可)



看護管理室  
副看護局長

鈴木 千晶

Q1 りんくう看護のブランディングを目指し、「看護で選ばれる病院作り」を基盤に病院運営に参画する。

Q3 職員の半数以上を占めている看護局の窓口でもある看護管理室です。看護職員が良いケアを提供できるよう、働き甲斐を感じられるよう、皆さんを支える管理室でありたいと常に考えています。

Q4 しばらく遠のいていたゴルフを、体力低下防止の為にできれば再開したいと考えています。

看護師長兼  
患者サポートセンター副センター長

渡邊 久代

Q2 当院で入院される患者様にきめ細かい支援が出来るようスタッフ一同頑張っています。当院の担っている基幹病院としての使命を果たすことが出来、且つ安全を前提とした入院病床の調整ができるよう頑張っています。

Q3 当院で入院される患者様の入院前からの支援、体制作りを強化しています。入院予約の際、少しお時間を頂いて各種説明を行ったりお話を伺わせて頂いて入院前の不安を緩和し、安心して治療に臨めることと退院後に困ることのないように早期から各職種、各施設と連携しております。

Q5 「新体操」「フィギュアスケート」憧れます。一度でいいから空中をかっこよく飛んでみたい。きれいな衣装を着たい。

薬剤科部長

森朝 紀文

Q1 椎間板ヘルニアを克服する。

Q3 薬剤師の人員の確保に苦労しています。

Q4 救命救急病棟に専任薬剤師を配置して、病棟業務加算の取得を復活する。

放射線技術科参事

小西 康彦

Q1 新人研修を充実させたい。

Q3 夜勤が3名体制になります。

Q5 ラグビー。チーム全員が同じ目標に向かって努力するところがすばらしい。

臨床工学科技術科長代理

中西 潤

Q1 組織と体制の構築をさらに推し進めていくこと。また次世代のリーダー育成に注力し、個々のスキルアップを図りたい。

Q3 取り扱う医療機器は多種多様であるがゆえに他部署との関わりも多く、情報収集に関しては豊富な部署です。些細な事でもご相談に応じます！

Q5 個人的には経験のある野球とテニスとサッカー。基本どのスポーツも好きなので、出られるならどんな種目でも出てみたい。長靴アイスホッケーが正式種目ならこれは絶対面白いのでぜひ出場したい！

栄養管理科兼医療マネジメント課

廣瀬 芽衣

Q1 まずは3月に受験する糖尿病療養指導士に合格すること。

Q2 運動が苦手ですがジムに通い始めました。月8回以上行くことを目標にこれからも頑張ります。

Q4 パン教室で焼いたベーグルが自宅では失敗続きなので、上手く焼けるようになること。アレンジもしてみたいです。

事務局長兼経営戦略室長

家宮 久雄

Q2 医療現場を支えていくことができるように、更なる事務職間のコミュニケーションの促進を図ったこと。

Q3 当院の事務職員に、「自分の仕事」の領域はもろろんのこと、少し視野を広げて先を予想することで、更なる成果が得られることを実感してもらいたい。

Q4 精神論ではなく少しでも具体的な行動を伴う意識改革ができる環境を整えたいと思います。

## 泉州広域母子医療センター

Sensyu Regional Medical Center for Women's and Children's Health

### ●周産期センター（産科・小児科）

平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院産婦人科はひとつの組織として統合されました。りんくう総合医療センターは「周産期センター」として泉州地域の産婦人科医療を担う病院として運用しています。



## ご寄附のお願い

りんくう総合医療センター

<http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/about/donation/>



りんくう総合医療センターでは、皆様に安全で安心な生活をお過ごしいただけるよう地域の医療を守っています。

当院の運営にご理解いただき、ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。詳しくは当院ホームページをご覧ください。